

週刊ビジネスニュース 03/24/06

あなたの背骨は大丈夫？

江川先生が語る脊柱側弯症

脊柱とは、24個の背骨が柱のように1つのユニットになったもののことを指します。側弯症とは、前または後ろから背骨を見たとき、背骨がS字に歪んでしまっている症状のことをいいます。この疾患の約80%のものが原因不明であると従来の医学では言われており、これを突発性側弯症といいます。その他原因の分かっているものに、背骨の奇形からおこる先天性のもの、骨折、くる病などによる骨の形状の変化によるもの、中枢神経や胸部等の疾患によるもの、椎間板ヘルニア等の疾患による痛みのために起こるもの等があります。

側弯症があるかどうかを検査する場合、ご家庭でも簡単な姿勢テストでチェックすることができます。

- ①立った状態で目を閉じ、数歩その場で足踏みをした後、できるだけ自分が自然だと思つた状態で静止します。
- ②パートナーに後ろに立ってもらい左右の耳の高さ、肩の高さ、ウエストの高さの違いを見てもらいます。(ひとりで見る場合、姿見等の全身が映る鏡の前に立って調べることもできます)
- ③立った姿勢から前屈し、パートナーに背中を見てもらいます。肩甲骨のどちらかが隆起していないかをチェックします。
- ④上記の検査のいずれかで、左右非対称が見られる場合、専門医による検査をおすすめします。全身投射のレントゲンによる診断が適切ですが中枢神経の障害の有無を調べるサーモグラフィーやEMG(筋電図)によるテストも受けられることをお勧めします。

本来背骨は前または後ろ正面から見たとき、真っすぐであること、そして横から見たとき4つの緩やかなカーブが保たれていることでメインコンピューターである脳からの大切なインフォメーションを全身に伝えるケーブルである脊髄と神経を守ることができます。ところがこの症状がある場合、日常生活や運動するには何の支障もないとされていますが、実際は疲れ易かったり、頭痛、肩こりや腰痛、または、心肺器官・消化器官・内分泌器官に関連する様々な病気になりやすくなります。突発性側弯症は成長期にさしかかる10代前半位から始まり、女の子に多く見られます。この場合、体の成長のスピードが早い関係上、歪みが悪化する可能性が非常に高く、早期発見と治療が必要であるとされています。原因の明らかなタイプのもは病因が治療されることによって改善されることもあるとされています。

近代医療でも様々な疾患の多くが、原因不明であるとされています。しかしこの世の中全てに原因・結果があるはずで、そうだとすれば、上記の突発性側弯症の原因となるものも必ずあるはずで、これからの医療は症状・病状をを診断し治療するのではなく、その病因となるものを早期発見し根本処置していくことが非常に重要です。

この偉大な発明家、トーマス・エジソンはこう言い残しています。「未来の医者は薬など与えず、人間の骨格とダイエットを重視し、疾病の原因となるものを予防していくことで、患者を診ていくことになるだろう」と。